

科目ナンバリング		G-AAA02 52402 LJ31									
授業科目名 ＜英訳＞		農業生態論				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 伊谷 樹一			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>アフリカの農業を、生態環境（気候、土壌、地形、植生など）、農耕体系（農耕技術、作物、生業複合、土地利用など）、文化（食、物質）などの多角的な視点から総合的に解説する。また、現代のアフリカ農村が直面している諸課題についてその原因を説明し、解決策にむけた取り組みを紹介する。</p>											
【到達目標】											
<p>現代アフリカにおける農業の実態を具体的な事例をもとに理解し、生態・社会・文化・歴史の各視点からその現状を総合的に把握できるようになる。また、農村の直面している土地争い、エネルギー不足、環境劣化などの実態を理解するとともに、課題間の相互関係を踏まえて解決策を考えることができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1～3回 アフリカ大陸の気候と地形  第4回 乾燥地域の生業  第5回 半乾燥地域の生業  第6回 湿潤地域の生業  第7回 生態環境と農耕体系（総論）  第8回 アフリカの食文化  第9回 アフリカの課題 1．食料事情  第10回 アフリカ農業の課題 2．エネルギー事情  第11回 アフリカ農業の課題 3．生態資源の利用と保全  第12回 農業の集約化  第13回 平準化機構と環境保全  第14回 環境を保全する試み  第15回 総括</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート											
----- 農業生態論 (2)へ続く -----											

## 農業生態論 (2)

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

( 参考書 )

掛谷誠・伊谷樹一 『アフリカ地域研究と農村開発』（京都大学学術出版会）ISBN:978-4-87698-989-8

松田素二 [ 編 ] 『アフリカ社会を学ぶ人のために』（世界思想社）ISBN:978-4-7907-1616-7

日本アフリカ学会 [ 編 ] 『アフリカ学事典』（昭和堂）ISBN:978-4-8122-1415-2

### [授業外学修（予習・復習）等]

予習・復習を必ず実施する。

### ( その他（オフィスアワー等） )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



## アフリカ環境学 (2)

### 【成績評価の方法・観点】

評価は、授業への理解（50％）と実習に対する期末レポート(50%)で評価します。

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

各回のテーマと関連させて、フィールドワークにおける基本技法（データの取得、および分析方法）を学ぶ実習も予定にしています。この実習では、室内/野外で簡単な作業をしたり、あるいは室内でノートパソコンを使い、マイクロソフトのエクセルとフリーのソフトウェアを使います。実験室の化学実験も予定しています。時間外に作業をしていただくこともあります。

### （その他（オフィスアワー等））

平日（月曜から金曜日まで）の夕方（16時～18時）をオフィスアワーとしていますが、学外出張や他用務などもあるので、空振りを避けるため、事前にメール連絡してください。  
メールアドレスはoyama.shuichi.3r[ @ ]kyoto-u.ac.jp です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52405 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域生態論 Ecology for Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 佐藤 宏樹			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
地域とは地理的な条件や歴史的な経緯によって特徴づけられる空間である。生態学とは生物が環境や他の生物と関わりながら生きている実体を理解する学問であるが、対象となる空間の地理や歴史を考慮しながら生物やヒトの生き様を理解する地域生態学は地域研究に有効な学問となる。本科目では研究科が調査対象とする地域を例に挙げながら、その地域を生態学的に理解するためのアプローチについて解説していく。											
【到達目標】											
自身が調査地に赴いた際に、その地域の自然環境や生物資源、社会の特性を生態学的に理解するために必要な理論と方法を習得すること。											
【授業計画と内容】											
以下の項目について、解説していく。下記の授業の回数は目安であり、授業の進捗状況や理解度によって変更する場合がある。											
[第1-3回] 自然環境と地域（アジア・アフリカとはどのような空間なのか、自然環境の地理と歴史から理解する）											
[第4-6回] 地域生態と人間活動（ヒトという生物の生態を理解し、どのように地域特有の生態環境で生きているのかを学ぶ）											
[第7-10回] 生態学と地域研究（生業生態、生態系サービス、持続的な開発目標などから生態学と地域研究の接続を考える）											
[第11-12回] 地域生態学の手法（地域生態学で用いるフィールドワークの手法について解説する）											
[第13-15回] 課題発表（地域生態学に関する課題を各受講生が発表し、その内容について討論する）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
講義への積極的な参加と応答、および課題発表に基づいて評価する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
講義中に指示する。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 52502 LJ31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ都市社会論 African Urban Society				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 平野（野元） 美佐			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>サハラ以南アフリカの諸都市は、外からのさまざまな影響を受けてきた。植民地時代に建設された都市はもちろん、古くから栄えてきた都市も、長距離交易、奴隷貿易、植民地化などの社会変動を受けつつ、その社会を形成、維持してきた。本講義では、ローカルとグローバルがせめぎ合うアフリカ都市社会の動態を、文献を読み込むことで、多角的に理解することを目指す。とくに、「贈与」「交換」「分配」などから考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>アフリカのさまざまな都市の過去から現在への発展や、アフリカ都市居住者の社会や生活について学ぶことで、アフリカ社会のもつダイナミズムやグローバル性を理解し、自己の研究対象地域への理解も同時に深めることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>毎回、1人～2人の受講者に、文献の内容をレジュメにまとめて発表してもらい、全員で議論する形式で授業を進める。ただし、受講者の数やその関心によって、授業の進め方を変更する可能性がある。</p> <p>第1回：ガイダンス  第2回～4回：交換と社会  第5回～8回：交換とアフリカ都市  第9回～14回：各地のアフリカ都市社会  第15回：まとめ（フィードバック）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
発表内容、出席など総合的に評価する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
受講生は、配布された文献等を事前に読んでくる必要がある。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーについては、メールで連絡をください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 52503 LB31									
授業科目名 <英訳>		相互行為論 Interaction Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 高田 明			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
Using multi-disciplinary research data I have collected, this course discusses the entwined relationships between human activities and the environment with special emphasis on the exchange of various natural and social resources among people in contemporary African societies. Each year, I will select a theme pertaining to this subject and develop empirical and theoretical arguments together with the course participants. In the 2023 course, we will reconsider hunter-gatherer childhood with setting "play" as the key concept, based on both the lecturer's field research on several groups of San and the literature review of the relevant studies of the wider hunter-gatherer groups.											
【到達目標】											
In this course, we will develop the above areas of interest by analyzing selected domains of child play based on ethnographic materials.											
【授業計画と内容】											
This course deals with the following topics, each of which lasts one or two weeks. The topics may be modified according to the interests of the class. The lectures are given mostly in English, although I will use Japanese if all of the students are Japanese.											
1. Children in the Wild											
2. The Last Hunter-Gatherers of the Kalahari											
3. Minding Hunter-Gatherer Childhood											
4. Children and Play											
5. Pleasure in nursing											
6. Playful Gymnastics											
7. The Joy of Early Vocal Communication											
8. Imitation in Playful Activities											
9. Socialization through Singing-and-Dancing Activities											
10. Play and Work											
11. Reconsidering Human Childhood											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Grading is based primarily on reports and class discussions, with weight given to active engagement in class.											
----- 相互行為論(2)へ続く -----											

## 相互行為論(2)

### [教科書]

Handouts will be provided in class.

### [参考書等]

( 参考書 )

Takada, A. 『The ecology of playful childhood: Caregiver-child interactions among the San of southern Africa. 』 ( Palgrave Macmillan, 2020 )

Reference articles and books will be assigned in class.

### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

Students will be required to submit two reports, one at the beginning and one during the middle of the course. Details about these reports will be provided in class.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		G-AAA02 52603 LB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ開発論 Development in Africa				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 高橋 基樹			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
<p>The term and phenomenon of development has been becoming a target shared not only by governments, aid agencies and international organizations but in African societies in genral. They have seemed to have widely permeated into everyday livelihoods of people. It has become very difficult to find a place where the phenomenon of development does not exist at all. In this sense, researchers on African societies now cannot ignore development. On the other hand, one shoule pay attention to the fact that development in Africa has various and complex aspects in terms of actors, implications for stakeholders, and outcomes. On the basis of backgrounds and significance, this lecture aims at enabling participants to acquire basic knowledge on African development.</p>											
【到達目標】											
<p>This lecture aims at participants' achievement of the following:</p> <p>1.to acquire basic understanding on diverse thoughts on development appearing since the beginning of modernization;</p> <p>2.to acquire basic understanding on actors, stakeholders, and relations between them in the context of development in Africa;</p> <p>3.to acquire basic understanding on inter-temporal changes in development in Africa;</p> <p>4.to build perspectives regarding relations between development and research fields and target countries of participants.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The former half of the course will cover discussion on the above-mentioned aims, which will be facilitated by the lecturer. In the latter half of the course, the participants will make presentations on their own research and on relations between development and research fields and target countries of participants.</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>50% of the evaluation is to be based on participants' attendance and contribution to the course</p> <p>50% of the evaluation is to be based on participants' own presentations.</p>											
----- アフリカ開発論(2)へ続く -----											

## アフリカ開発論(2)

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

( 参考書 )  
授業中に紹介する

Participants are expected to well consult with the lecturer on searching relevant reference for their presentations.

### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

Participants are expected to well consult with the lecturer for preparation for their presentations. They are also expected to attend all the classed as much as possible, to follow the contents and to reflect them in their presentations.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Continuous and systematic learning, above all, will enhance your ability for research. Please do attend all the classes as much as possible.

The office hour is not specified. You are expected to make appointments with the lecturer through emails, if you would like to see him.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



## 野生動物保全論 (2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

討論のテーマについての予習・復習を求める。  
討論の内容次第で、指示した文献について適宜事前読解を求めることがある。

### (その他(オフィスアワー等))

講義時に必要に応じ指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 82605 LJ31									
授業科目名 <英訳>		水・衛生論 Water, Sanitation and Hygiene				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 原田 英典			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>水は生きるために必須であり、排泄は生活にともなう必然である。水（Water）、トイレと排泄物の処分（Sanitation）、および衛生行動（Hygiene）は合わせて水・衛生あるいはWASHと言われるが、その確保はサハラ以南アフリカにおける重要な課題の一つである。本授業では、廃棄物を含めつつ、水・衛生に関するその現況、健康への影響、物質循環と環境への影響、そして人・環境・社会との相互作用について学び、サハラ以南アフリカにおける水・衛生のあり方を考察する。あわせて、水・衛生にかかる理化学および微生物データ取得のためのフィールド調査について学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>水・衛生について、健康との関係を理解する。          水・衛生について、物質循環および環境との関係を理解する。          人・環境・社会との相互作用について理解する。          水・衛生の量・質のデータの取得方法とその意味を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第01回：水・衛生の概要1          第02回：水・衛生の概要2          第03回：水・衛生と健康1          第04回：水・衛生と健康2          第05回：水・衛生と物質循環1          第06回：水・衛生と物質循環2          第07回：水・衛生と社会関係1          第08回：水・衛生と社会関係2          第09回：水・衛生を評価する1          第10回：水・衛生を評価する2          第11回：水・衛生を評価する3          第12回：アジア・アフリカ諸地域の水・衛生1          第13回：アジア・アフリカ諸地域の水・衛生2          第14回：アジア・アフリカ諸地域の水・衛生3          第15回：フィードバック</p> <p>授業内容は受講人数や構成で一部変化する可能性がある。第9回から第11回の授業には一部に水・衛生の量・質の測定実習とそのデータ解析を、第12回から第14回は受講者による発表を含む。</p>											
【履修要件】											
<p>特になし。受講者のバックグラウンドの文理は問わない。</p>											

水・衛生論(2)へ続く

## 水・衛生論(2)

### [成績評価の方法・観点]

授業への参加・貢献（50％）および発表（50％）に基づく。

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

（参考書）

Taro Yamauchi, Seiji Nakao, Hidenori Harada 『The Sanitation Triangle: Socio-Culture, Health and Materials』（Springer, 2022）ISBN:978-981-16-7710-6（<https://doi.org/10.1007/978-981-16-7711-3>）  
山内太郎，中尾世治，原田英典 『総論 サニテーション学の構築』（北海道大学出版会, 2022）ISBN:978-4-8329-2951-7（講座 サニテーション学 第1巻）  
中尾世治，牛島健 『社会・文化からみたサニテーション』（北海道大学出版会, 2023）（講座 サニテーション学 第2巻）  
藤原拓，池見真由 『サニテーションが生み出す物質的・経済的価値』（北海道大学出版会, 2023）（講座 サニテーション学 第3巻）  
原田英典，山内太郎 『サニテーションと健康』（北海道大学出版会, 2023）（講座 サニテーション学 第4巻）  
清水貴夫，牛島健，池見真由，林耕次 『サニテーションのしくみと共創』（北海道大学出版会, 2022）（講座 サニテーション学 第5巻）

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業後にその内容について自主的な学習で理解を深めること。発表に向けて授業内容を踏まえて準備をすること。学習のための資料は適宜紹介する。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52807 LJ31									
授業科目名 <英訳>		熱帯病学 Tropical Diseases				担当者所属・ 職名・氏名		関西医科大学 教授 西山 利正			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
アジア・アフリカ研究科ではアジア・アフリカ地域でのフィールドワークを行う研究者が多い、ところがこれらの地域は我が国に見られない種々の感染症を中心とした疾病が見られる。これらの疾病に対する知識を深め、健康に研究を遂行するための諸知識を習得する。											
【到達目標】											
学生の調査地における風土病に関する知識を身につけ、フィールド調査時における自己の健康管理ができ、熱帯地域における感染症の予防や罹患した時の治療の説明ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回：熱帯病学総論											
第2回：カ媒介性疾患1（マラリア）											
第3回：カ媒介性疾患2（デング熱、黄熱、チクングニア、西ナイル熱など）											
第4回：カ媒介性疾患3（バンクロフト系状虫症、マレー系状虫症など）											
第5回：ダニ媒介性疾患（恙虫病、紅斑熱、ダニ脳炎、クリミア・コンゴ熱、ライム病など）											
第6回：ハエ媒介性疾患（リーシュマニア症、アフリカ睡眠病、回旋系状虫症、ロア系状虫症、人食いバエなど）											
第7回：経皮感染症（住血吸虫症、鉤虫症、糞線虫症、レプトスピラ症など）											
第8回：経口感染性ウイルス性疾患（A・E型肝炎、ノロ感染症、ロタ感染症、急性灰白髄炎など）											
第9回：経口感染性細菌性疾患（病原性大腸菌群感染症、細菌性赤痢、腸チフス、サルモネラ食中毒、コレラ、カンピロバクタ感染症など）											
第10回：経口感染性寄生虫疾患I（アメーバ赤痢感染症、トキソプラズマ症、ランブル鞭毛虫症、回虫症など）											
第11回：経口感染性寄生虫疾患II（鉤虫症、鞭虫症、肝吸虫症、肥大吸虫症、肝蛭症、異形吸虫症、肺吸虫症）											
第12回：ほ乳類咬傷による感染症・性感染症（狂犬病、破傷風、Bウイルス感染症、パストツレラ感染症、HIV感染症、梅毒、淋病、クラミジア感染症など）											
第13回：マラリア・デング熱簡易診断キットの使い方（実習を含む）											
第14回：航空機中で引き起こされやすい疾患と予防、旅行保険の上手な入り方											
第15回：トラベルワクチンの選択と接種プログラムの作り方											
【履修要件】											
高等学校で生物を履修していることが望ましいが、必須ではない。											
【成績評価の方法・観点】											
レポートの提出により評価を行う。レポートのテーマはまず受講生の調査地を必ず記載し、その地域で流行している疾患を記載し、その予防対策、感染時の対応を記載する。											
----- 熱帯病学(2)へ続く -----											

## 熱帯病学(2)

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### （関連URL）

<http://www.who.int/ith/en/>(WHO International Travel and Health)  
<http://wwwnc.cdc.gov/travel/>(CDC Travel Health)  
[http://www.forth.go.jp/tourist/useful/02\\_tokou\\_yobou.html](http://www.forth.go.jp/tourist/useful/02_tokou_yobou.html)(厚労省検疫所ホームページ)  
<http://www.anzen.mofa.go.jp/>(外務省海外安全情報ホームページ)  
<http://www.travelmed.gr.jp/>(日本渡航医学会トラベルクリニックリストホームページ)

### 【授業外学修（予習・復習）等】

講義の後、関連項目をWHOのInternational Travel and Health や米国CDCのYellow Book等の該当部分をインターネットで検索し復習すること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワー 金曜日12時～13時

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		G-AAA02 52808 LJ31									
授業科目名 <英訳>		実践的開発協力論 Practical Development Cooperation				担当者所属・ 職名・氏名		アフリカ理解プロジェクト 白鳥 清志			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
<p>開発とは？開発は役に立つのか？開発は何のために？という疑問を持つ人にヒントを提供する講義。</p> <p>アフリカの農業・農村開発分野における技術協力の実例から、開発援助事業が本来目指していることと現場で起こる様々な事象を題材にする。開発援助の歴史と事業の概要を解説した後、開発とは何か、最終受益者・現地行政官・民間業者・開発ワーカーなど関係者それぞれのリアリティ、開発ワーカーの考え方、行動、役割、求められる能力などを議論する。</p>											
[到達目標]											
開発と援助事業をクリティカルに考察できるようになる。											
[授業計画と内容]											
<p>以下の課題について次のテーマをカバーします。 (事例は変更の可能性あり)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>開発の目的</li> <li>開発の歴史</li> <li>開発の制度・仕組み</li> <li>開発の事例：モザンビーク 1</li> <li>開発の事例：モザンビーク 2</li> <li>開発の事例：タンザニア 1</li> <li>開発の事例：タンザニア 2</li> <li>開発の事例：エチオピア 1</li> <li>開発の事例：エチオピア 2</li> <li>開発へのかわり方</li> <li>開発にかかわる人々</li> <li>開発の計画と現実</li> <li>開発現場の不確実性</li> <li>開発ワーカーに求められる能力と態度</li> </ol>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
授業への出席と、議論への参加で判断します。											
<div>----- 実践的開発協力論(2)へ続く -----</div>											

## 実践的開発協力論(2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)

Robert Chambers 『参加型開発と国際協力』(明石出版) ISBN:978-4750313078 (開発に関わる我々が変わることを議論)

Robert Chambers 『開発の思想と行動』(明石書店) ISBN:978-4-7503-2495-1 (「参加型開発と国際協力」の続編で、開発の携わる者の責任と義務について議論)

JIRCAS 『ファーマリング・システム研究: 理論と実践』(JIRCAS) ISBN:1341-3899 (日本におけるファーマリングシステムの詳細な解説と議論。技術とは何か、研究の役割を考える資料。)

服部正也 『援助するものされるもの』(中央公論新社) ISBN:4120031047 (開発の携わる者の態度と考え方)

Paul Polack 『世界一大きな問題のシンプルな解き方 私が貧困解決の現場で学んだこと』(英治出版) ISBN:978-4862761064 (開発をビジネスマインドで考える)

和田信明・中田豊一 『途上国の人々との話し方』(みずのわ出版) ISBN:B00X3MR8AM (開発現場におけるコミュニケーションの方法)

Alem, D. et al. 『Farmer Research group: Institutionalizing Participatory Research in Ethiopia』(Practical Action Publishing) ISBN:978-1853399008 (エチオピアにおける参加型開発アプローチ実践の記録)

大熊孝 『技術にも自治がある』(農山漁村文化協会) ISBN:978-4540031076 (近代技術とコミュニティー)

佐藤仁 『野蛮から生存の開発論: 越境する援助のデザイン』(ミネルヴァ書房) ISBN:978-4623076772 (特に日本の開発と開発技術を歴史的見地から検討)

関根久雄 『実践と感情: 開発人類学の新展開』(春風社) ISBN:978-4861104695 (開発現場に関わる者たちの感情とその実践への影響などについて。)

(関連URL)

<https://sites.google.com/site/ethiorice/>(Ethiopia Functional Enhancement of the National Rice Research and Training Center)

<http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/5065025E0/>(Ethiopia Farmer Research group Project II)

<http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/>(Ethiopia Farmer Research group Project)

[http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/tech\\_ga/after/pdf/2004/hyouka\\_nougyo2\\_02.pdf](http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/tech_ga/after/pdf/2004/hyouka_nougyo2_02.pdf)(Tanzania Kilimanjaro Agricultural Training Centre Project)

<https://www.youtube.com/watch?v=f4L9X39fhFc>(FRG Approach - Together we can make it)

<https://www.ngo-jvc.net/jp/projects/advocacy/prosavana-jbm.html>(Prosavanna in Mozambique)

### [授業外学修(予習・復習)等]

下記および他の開発援助事業資料を見て、質問等をリストアップしておく。

- エチオピア国立イネ研究研修センター強化プロジェクト

<https://sites.google.com/site/ethiorice/>

- エチオピア農民研究グループを通じた適正技術開発普及プロジェクト

実践的開発協力論(3)へ続く

### 実践的開発協力論(3)

- <http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/>  
タンザニア農業技術者訓練センタープロジェクト
- <http://goo.gl/kpqxcE>
- ・ 外務省プロサバンナ  
<http://www.jica.go.jp/project/mozambique/001/activities/>
- ・ JVCプロサバンナ事業に関する取組み  
<http://www.ngo-jvc.net/jp/projects/advocacy/prosavana-jbm.html>

#### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

現場での研究調査などを通じたみなさんの開発や援助に対する知識や経験をもとに、積極的な議論への参加を期待します。

どんなことでも問い合わせてください。

kiyoshi.shiratori@africa-rikai.net

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 82155 LB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ政治論 African Politics				担当者所属・ 職名・氏名		龍谷大学法学部 教授 落合 雄彦			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>アフリカには現在、54の国家がある（西サハラを除く）。そうしたアフリカ諸国の政治をめぐる状況や制度は実に多様だが、その一方で共通性もかなりの程度みられる。本授業では、そうした多様ではあるがある程度の共通性を備えたアフリカ諸国をひとつの圏域（スフィア）として捉え、その政治的動態を多面的に考察する。具体的には、アフリカ政治学のスタンダードな英文入門書であるThomson, Alex (2023) An Introduction to African Politics (fifth edition, London and New: Routledge)をテキストとして用い、アフリカ政治を分析あるいは理解するために必要となる基本的な分析概念・枠組みを学んでいく。</p>											
【到達目標】											
アフリカ政治を分析するための基本的な分析概念・枠組みを理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>授業は学生による報告とその後のディスカッションを中心に進める。学生の報告については、受講者の人数などにもよるが、1回の授業で2名程度に報告してもらう予定である。</p> <p>具体的な授業スケジュールとテーマは以下のとおり。</p> <p>01：オリエンテーション（自己紹介、発表順決めなど）</p> <p>02：歴史</p> <p>03：イデオロギー</p> <p>04：エスニシティと宗教</p> <p>05：社会階級</p> <p>06：正当性</p> <p>07：強制</p> <p>08：主権I</p> <p>09：主権II</p> <p>10：権威</p> <p>11：デモクラシー</p> <p>12：安全保障</p> <p>13：地域主義</p> <p>14：域内国際政治</p> <p>15：まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											

----- アフリカ政治論(2)へ続く -----

## アフリカ政治論(2)

### 【成績評価の方法・観点】

口頭発表ならびにディスカッションの内容を総合的に評価する。

### 【教科書】

Thomson, Alex 『An Introduction to African Politics』 (Routledge)  
原則、教員がテキスト（コピーあるいはPDF）を配布する。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### （関連URL）

<http://hare.law.ryukoku.ac.jp/~ochiai/>(落合雄彦研究室)

### 【授業外学修（予習・復習）等】

事前に指示されたテキストを授業前に各自読んでくること。

### （その他（オフィスアワー等））

教員は非常勤講師であるため、木曜日午前しか京都大学キャンパスにはいない。授業に関する質問などがある場合には以下のアドレスにメールで問い合わせること。  
[ochiai@law.ryukoku.ac.jp](mailto:ochiai@law.ryukoku.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 82809 LJ31									
授業科目名 ＜英訳＞		牧畜文化論 Culture and Society of Nomadic Peoples				担当者所属・ 職名・氏名		徳島大学大学院社会産業理工学研究科 内藤 直樹 准教授			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
この授業では、講師が収集してきた学際的な研究資料を用いて、現代アフリカの牧畜社会を中心的な事例として、グローバル/ローカルな人間と非人間によるランドスケープや場所の構成について議論する。年度ごとにこの主題に関係するテーマを選び、授業の参加者と経験的・理論的な議論を行う。2023年度は、現代アフリカの牧畜民および日本の地域社会を対象にした講師のフィールド調査およびドメスティケーション、景観、人新世、民族誌論についての関連文献に基づき、＜場所の生態学＞について考察する。											
【到達目標】											
この授業では、講師が選定した牧畜社会におけるランドスケープや人間／非人間のパッチに関する複数の領域について、民族誌的な資料を分析することを通じて、上記の関心についての議論を深める。											
【授業計画と内容】											
この授業では、以下のようなトピックについて、1トピックあたり2～3回の授業を行う予定である。トピックについては、受講生の関心を考慮して適宜調整する。授業は主として英語で行う。ただし、受講生がすべて日本語話者である場合は日本語を用いる。											
1. 牧畜の起源と進化 2-3. ドメスティケーションについて 4. アフリカ牧畜社会の特徴：年齢体系と複婚制 5. アフリカ牧畜社会の特徴：コミュニケーションとしてののねだり 6-7. 東アフリカ牧畜社会における開発と定住化 8-9. 東アフリカ牧畜社会における紛争・難民・平和 10-11. ランドスケープの人類学：景観人類学・歴史生態学 12-13. ランドスケープの人類学：マルチスピーシーズ民族誌・フェミニスト民族誌 14-15. 場所の生態学にむけて											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
成績評価は、主としてレポートと授業中の議論に基づいて行う。議論への積極的な参加を重視する。											
----- 牧畜文化論(2)へ続く -----											

## 牧畜文化論(2)

### [教科書]

授業中にプリントを配布する.

### [参考書等]

( 参考書 )

アナ・チン 『マツタケ：不確定な時代を生きる術』（みすず書房）ISBN:978-4622088318（Tsing, Anna. 2017. The Mushroom at the End of the World: On the Possibility of Life in Capitalist Ruins. Princeton: Princeton University Press.）

その他の参考文献は授業中に紹介する．

### [授業外学修（予習・復習）等]

受講者には2つのレポートの提出を求める（1つは初回の授業，もう1つは学期の途中で課題を提示する）．レポートの詳細については授業中に解説する．

### （その他（オフィスアワー等））

質問はnaito.naokiアットマークtokushima-u.ac.jpまでお送りください。随時受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52810 PJ31									
授業科目名 <英訳>		GIS分析実習 GIS Data Analysis				担当者所属・ 職名・氏名		東京都立大学都市環境学部地理環境学科 矢部 直人 准教授			
配当 学年	1,2回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
地理情報システム（GIS）は電子地図を扱うシステムであり、フィールド調査で集めたデータや、衛星画像などの既存のデータを地図上に表現し、分析することができます。GISの基本的な概念やソフトウェアの使い方を実習によって理解し、自分の研究で使えるようにすることを目的とします。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・GISの基本的な概念について理解する</li> <li>・既存の地理情報を入手できる</li> <li>・フィールド調査で集めたデータなどを地図上に表現することができる</li> <li>・地図の重ね合わせなどGISを使った基本的な分析ができる</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の項目について、履修者の理解の状況や研究テーマに応じて説明，実習をします。</p> <p>（１）GISの基本的な概念（２回） 地理情報の構成，ベクター形式，ラスター形式，地図投影法</p> <p>（２）GISソフト（２回） QGIS，Googleアース，Googleマップ</p> <p>（３）既存の地理情報の入手（２回） 地球地図，DEM，衛星画像</p> <p>（４）フィールド調査による地理情報の入手（４回） ベクター形式のデータ作成，GPSの利用，ジオタグ</p> <p>（５）基本的な分析（５回） 距離・面積の測定，バッファリング，オーバーレイ</p> <p>履修者の人数と研究テーマ，興味・関心に沿って，内容や順序を変更することがあります。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
説明内容の理解（30％），実習への主体的な参加（70％）によって評価します。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 浅見泰司・矢野桂司・貞広幸雄・湯田ミノリ編『地理情報科学 GISスタンダード』（古今書院，											
-----GIS分析実習(2)へ続く-----											



## GIS分析実習(2)

2015 ) ISBN:9784772252867

橋本雄一 『二訂版 Q G I S の基本と防災活用』 ( 古今書院 , 2017 ) ISBN:9784772231862

### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

予習 , 復習には参考書に目を通すほかに , GISソフトウェアの操作を覚えるには反復が重要なため , GISソフトウェアに触ってみることをおすすめします。

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 82811 LE31									
授業科目名 <英訳>		Innovative Africa and SDGs Innovative Africa and SDGs				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科		教授 高橋 基樹 教授 平野(野元) 美佐 准教授 金子 守恵 准教授 原田 英典 助教 中尾 世治 助教 齋藤 美保	
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	英語
【授業の概要・目的】											
In order to achieve sustainable development in Africa, we need to address the existing problems and promote technological and social innovation while also learning about the initiatives taken in Africa as well as the formation of local knowledge in communities. Thus, this course offers a holistic view of Africa and Africa's potential from its ecological, economic, political, technological, cultural, and historical backgrounds from diverse disciplines. We also encourage the mutual exchange of ideas between students from African countries and students studying African affairs. This course is associated with the Innovative Africa program (IAfP), and, as a part of this course, the students will present at the International-Joint Conference of IAfP.											
【到達目標】											
In this course, we will provide a holistic view on Africa from diverse disciplines and develop students' studies.											
【授業計画と内容】											
1. Introduction, Motoki Takahashi 2. Students' presentations 3. Water&Sanitation and SDGs I, Hidenori Harada 4. Water&Sanitation and SDGs II, Hidenori Harada 5. Mutual Aids and SDGs I, Misa Hirano-Nomoto 6. Mutual Aids and SDGs II, Misa Hirano-Nomoto 7. Wildlife conservation and SDGs, Miho Saito 8. Wildlife conservation and SDGs, Miho Saito 9. Development Economics and SDGs I, Motoki Takahashi 10. Development Economics and SDGs II, Motoki Takahashi 11. Community-based Technology and SDGs I, Guest Lecturer 12. Community-based Technology and SDGs II, Guest Lecturer 13. Local Knowledge and SDGs I, Morie Kaneko (guest lecturer) 14. Local Knowledge and SDGs II, Morie Kaneko (guest lecturer) 15. International-Joint Conference											
【履修要件】											
特になし											
----- Innovative Africa and SDGs(2)へ続く -----											

## Innovative Africa and SDGs(2)

### 【成績評価の方法・観点】

- (1) Class attendance and active participation, 40%
- (2) Two presentations, 40%
- (3) End-of-term paper, 20%

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

We recommend students exchange ideas and discuss out of class.

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



## フィールド統計学(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点（100％）

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）

Michael J.Crawley 『統計学：Rを用いた入門書 改訂第2版』（共立出版, 2016）ISBN:9784320111547（ユーザーとして統計学を学ぶ人のための入門書。Rを使った実行例も豊富。）

粕谷英一 『生物学を学ぶ人のための統計のはなし: きみにも出せる有意差』（文一総合出版, 1998）ISBN:9784829921234（生態学を専攻する学生に向けた入門書だが、会話形式で書かれており、どの分野の学生にとっても読みやすい）

久保拓弥 『データ解析のための統計モデリング入門』（岩波書店, 2012）ISBN:9784000069731（初心者がGLMを学ぶならこの本。本講義では6章までの内容を扱う。この本ではRの基礎知識は前提となっている。）

大塚 淳 『統計学を哲学する』（名古屋大学出版会, 2020）ISBN:9784815810030（一見すると統一的で客観的に見える統計学にも、実際には哲学や主義があり、決して万能でも絶対でもないことがわかる本。読むのにある程度の統計学的知識が必要となるが、読み物としてオススメ。）

### [授業外学修（予習・復習）等]

- ・高校数学の予備知識は必要としません。
- ・講義では全体として、数式を用いた正確な理解よりも、イメージとしての把握を目指します。
- ・したがって、数学的な理解をするためには参考書等で復習する必要がありますし、それを勧めます。
- ・演習の時間には各自のノートパソコンを使って、Rを動かします。以下のウェブサイトなどを参照して最新の "R" と "R Studio Desktop" をインストールしておいてください。

「R入門」

<http://ss.sguc.ac.jp/~rider/R/install.html>

「超初心者向けのRインストール」

<http://sgn.sakura.ne.jp/R/Rinstall.html>

「WindowsでのR/RStudioのインストール」

<https://okumuralab.org/~okumura/stat/R-win.html>

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52851 SB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ地域研究演習Ⅰ Research Seminar on African Area StudiesⅠ				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授      アフリカ地域研究専攻全教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
アフリカ地域研究にかかわる基礎的な問題とそれに対するアプローチの方法についての演習をおこなう。											
【到達目標】											
アフリカ地域研究の特質を理解し、みずからの研究課題を設定する能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点】											
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 52852 SB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ地域研究演習ⅠⅠ Research Seminar on African Area StudiesⅡ				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授      アフリカ地域研究専攻全教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
アフリカ地域研究にかかわる具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。また、博士予備論文のための研究に関する広い立場からの評価や指導をおこなう。											
【到達目標】											
アフリカ地域研究の特質を理解し、みずからの研究課題を設定する能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点】											
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 72853 SB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ地域研究演習ⅠⅠⅠ Research Seminar on African Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授      アフリカ地域研究専攻全教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
アフリカ地域研究にかかわる総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。											
【到達目標】											
アフリカ地域研究における研究課題を設定し、その成果を整合的に整理して提示することができる。											
【授業計画と内容】											
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点】											
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



科目ナンバリング		G-AAA02 72854 SB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ地域研究演習IV Research Seminar on African Area Studies IV				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授      アフリカ地域研究専攻全教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
アフリカ地域研究に関する先端的な問題と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。											
【到達目標】											
アフリカ地域研究における研究課題を設定し、その成果を整合的に整理して提示することができる。											
【授業計画と内容】											
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点】											
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 62801 GB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
博士予備論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、フィールドワークの視点と方法を練り上げるための演習。											
[到達目標]											
博士予備論文に関する基本的事項を理解する。											
[授業計画と内容]											
指導教員の3名が、学生の博士予備論文の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
[成績評価の方法・観点]											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 72802 GB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年不定	曜時間	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
博士論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、学際化と研究内容の深化を図るための演習。											
【到達目標】											
博士論文に関する基本的事項を理解する。											
【授業計画と内容】											
指導教員の3名が、学生の博士論文準備の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
【履修要件】											
博士予備論文審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点】											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
自らの研究テーマに沿った資料の収集，分析。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 72803 GB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年不定	曜時間	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
博士論文の作成に向けて、そこで提起された個別課題に関する学生の研究内容について討議し、それをさらに総合化・深化させるための演習。											
【到達目標】											
博士論文に関する事項の理解を総合化・深化させる。											
【授業計画と内容】											
指導教員の3名が、学生の博士論文作成の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
【履修要件】											
博士予備論文審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点】											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
自らの研究テーマに沿った資料の収集，分析。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 52804 FB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
生態・社会・文化に根ざした地域の固有性を理解するとともに、地域が直面する現代的諸問題を研究課題として発見するためのフィールドワークの手法を習得する。											
【到達目標】											
フィールドワークに関する基本的事項を理解する。											
【授業計画と内容】											
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
【履修要件】											
1 年次に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>											
【成績評価の方法・観点】											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 62805 FB31									
授業科目名 ＜英訳＞		アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	2-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう手法を習得する。											
【到達目標】											
自らの研究テーマを発展させるための応用的なフィールドワーク手法を身につける。											
【授業計画と内容】											
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
【履修要件】											
2年次以降で博士予備論文提出前に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>											
【成績評価の方法・観点】											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 72806 FB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
<p>[授業の概要・目的]</p> <p>フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、国際機関やNGO、研究機関等において研究発表や討論をおこなうとともに、必要に応じて研究課題に即した実践活動をおこなう。</p>											
【到達目標】											
フィールドワークに関する事項の理解を総合化・深化させる。											
【授業計画と内容】											
<p>学生は教員とともに研究発表や実践活動の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地でそれを行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。</p>											
【履修要件】											
<p>博士予備論文提出後に臨地教育を受けた者（インターンシップを含む）。ただし、博士予備論文提出後、そのセメスター内に臨地教育を受けた者は臨地演習 の単位とする。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。</p> <p><a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a></p>											
【成績評価の方法・観点】											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>授業中に紹介する</p>											
【授業外学修（予習・復習）等】											
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析，応用が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											